LET'S ENJOY PARK GOLF

パークゴルフ応援キャラクター
“パッキー”

パークゴルフ

ひとを元気に、まちを元気に
笑顔ひろがる
コミュニティスポーツ

人にやさしく、自然に優しく、誰もが楽しめる。
“遊び”を原点とした３世代スポーツ、
それが**パークゴルフ**です。

世代を問わずみんなが楽しめる。
自然と笑顔がこぼれるから、人に元気が、まちに活気があふれてくる。
パークゴルフ発祥の地北海道幕別町をはじめとして
今、様々な地域でパークゴルフのもたらす相乗効果が現われています。

パークゴルフとは

パークゴルフとは、スタート地点（ティーグラウンド）から各人がクラブで自分のボールを打ち、いかに少ない打数で直径約20cmのカップに入れるかを競うスポーツです。４人以内で回り（１人でもかまいません）、コースはハーフ９ホール（パー 33）を原則として、１ラウンド18ホール（パー 66）でプレーします。コースによっては27ホール、36ホールとあり、地形を利用したコースレイアウトなどその土地ならではの特色を活かせるのも大きな魅力です。また、ハンディキャップを最小限にとどめるため、１ホールの距離を100m以内と定められています。

地域の活性化や医療福祉分野への貢献など、パークゴルフの多様な可能性が、今注目を集めています。

パークゴルフによる効果

地域交流 3世代交流 国際交流

高齢者同士はもちろん３世代が和気あいあいとプレーを楽しめ、新しいコミュニティ形成の社会効果を生み出します。

健康促進

「よく眠れる」「食事が楽しくなった」「足腰が丈夫になった」など健康増進効果があり、医療費削減にも貢献します。

教育効果

コミュニティスポーツとして、小中学生をはじめ大学でも、授業またはクラブ活動として広く採用されています。

経済効果

特産品の売上増など観光消費額の増加が期待され、地域の経済活性化に大きな貢献を果たします。

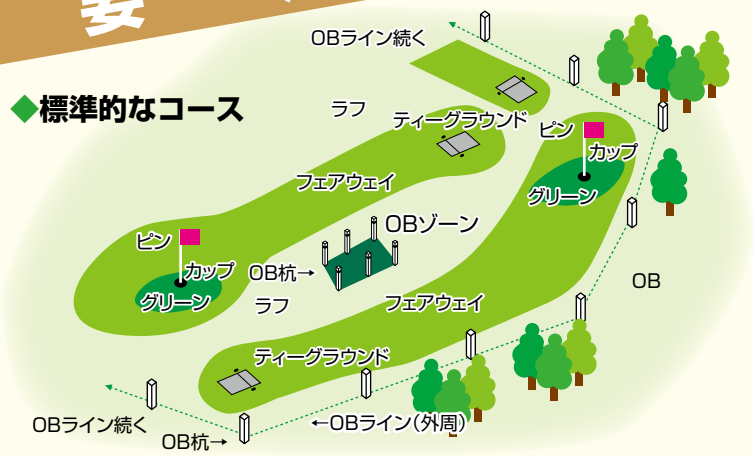
土地の有効利用

雑草が生い茂っているだけの広い土地が、笑顔あふれる集いの場になるとしたら。
パークゴルフは土地の有効利用という面からも注目されています。

環境保全

あるがままの自然環境を有効利用することで、環境保全にも効果的。
企業（工場など）の緑化政策にも最適です。

パークゴルフ導入にあたっての 要　点



コースの造成については地形（自然）を利用することをふまえた充分な配慮が必要です。どんな土地がコースとして適当かを把握し、地形、その他を充分に活かすための現状分析を行います。また、パークゴルフはゴルフとは似て非なるもの。多世代、近隣市町村からの来訪など幅広い層の人々がプレーを楽しめることを目的としたスポーツであることを忘れてはなりません。

1 コースとして適当な場所

❶既存の公園を利用する。
❷河川敷を造成する。
❸林地・畑・原野などを造成する。
❹スキー場・ゴルフ場の遊休地を活用する。
❺その他の遊休地を造成する。

2 必要な面積等

❶18ホールとして、おおよそ12,000㎡以上の面積が必要です。
❷地理的条件にもよりますが、大会等を考慮し隣接して将来18ホールを追加できるようであればなお望ましいです。
❸コースは公認になるコースづくりを。
❹自然を大切に、農薬は絶対禁止。

3 コースレイアウトと造成

❶コースは９ホールを単位としてレイアウトする。
❷標準打数（パー）は18ホールで66とする。
❸１ホールの距離は、最長100m以内とする。
❹１コース（18ホール）の距離は、700m以上から1000m以内までとする。

4 コース全体のイメージ

❶パークゴルフのコースは、既存の公園の場合ではその美しさを損なわないコース造りを心掛ける。
❷河川敷などに造る場合は、ゴルフ場の美しさをイメージしながら、パークゴルフに相応しいものを造る。使用用具の制約があるため、池越え谷越えのコースは出来ません。

パークゴルフによる 街づくり

家族や友達、また会社やサークルの仲間と一緒に気軽に楽しめるパークゴルフは、特別な宣伝をした訳でもなく、発祥地･北海道幕別町から他の市町村へと瞬く間に広がりました。そこには、多くの人々がこのような自然の中での爽快感、人とのふれあいが楽しめるスポーツを望んでいたこと、そしてパークゴルフには遊びを超越したプラスアルファの魅力があったからに違いありません。「公園に親しむ人が増えた」「パークゴルフが縁で友達の輪が広がった」「無理せず楽しめてストレス解消にぴったり」などのメリットが注目され、やがて普及と同時に各地で「交流」を求める活動へと進展。公園の有効利用から始まったパークゴルフは住民レベルの自主的交流から人の移動による消費促進の経済効果、適度な運動による健康増進や老人医療費の抑制、生涯学習等への教育効果など、数えきれないほどの相乗効果を発揮し、あらゆる地域、様々なシーンで取り入れられています。

はらっぱ36　上空からの撮影

「楽しさの共有」をキーワードに、
パークゴルフを通して
コミュニケーションの輪が広がっています。

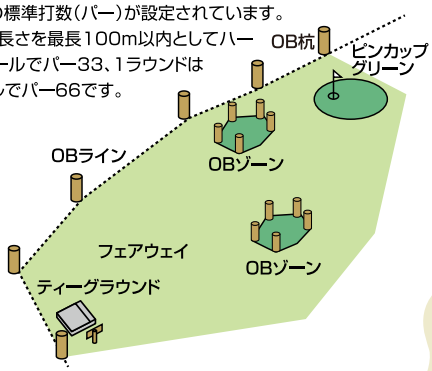
パークゴルフの遊び方

How to play PARKGOLF

数本のクラブを使う本格的なゴルフと違って、1本のクラブと1個のボール、それにボールを置くティーがあれば誰でもプレーができます。プレーの方法は、1個のボールをティーグラウンドから放ち、1ストローク以上のストロークを積み重ねてカップに入れます。ボールをカップインするまでの打数を競い合いながら楽しく遊ぶスポーツです。

コース

スタート位置にティーグラウンドがあり、1ホールに3から5の標準打数(パー)が設定されています。ホールの長さを最長100m以内としてハーフは9ホールでパー33、1ラウンドは18ホールでパー66です。

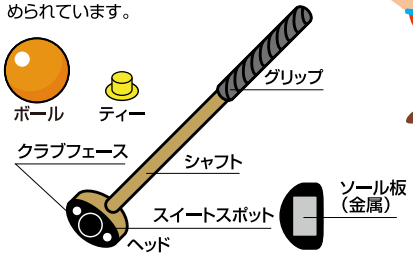


初心者にやさしい

パークゴルフでは空振りは打数に数えません。気を楽に、ボールを見つめて打ち下ろせば、ほら、見事スイートスポットから快音が発します。

パークゴルフ用具の基準

クラブの重量は600g以下、長さは860㎜以下です。また、ヘッドの木部の体積割合は82%以上と決められ、打球面とソール面(クラブヘッドの底面)の角度は90度以上。ボールは直径が6cm、重量は80以上95g以下と決められています。



安全第一に楽しく遊ぶ

1人でも何人でもプレーは楽しめますが、グループの場合は、3~4人で1組としてください。ティーショット時の同伴者はティーグラウンドの外で静かに待ち、近寄ったり打者の前には絶対に出ないようにしましょう。とても危険なので全員が打ち終わってからフェアウェイに出ることが原則です。

私たちは、世代や地域を越えより多くの人々に愛されるパークゴルフの普及と発展に努めています。

公式ホームページをご覧ください。

https://www.parkgolf.or.jp/

日本パークゴルフ協会　検　索

日本パークゴルフ協会設立主旨

本協会は、国内におけるパークゴルフを代表する団体として、パークゴルフの普及振興を内外において図ることを主導し、もって人々の心身の健全な発達と生涯スポーツの振興に寄与することを目的として活動しています。

概　　要

■法人名／公益社団法人　日本パークゴルフ協会
■所在地／〒089-0616　北海道中川郡幕別町宝町53-1
■沿　革／1983年　パークゴルフの原型が北海道幕別町で誕生
1987年　パークゴルフの統括組織として国際パークゴルフ協会が設立（2001特定非営利活動法人（NPO）法人資格取得）
2011年　公益社団法人日本パークゴルフ協会が前身（NPO）国際パークゴルフ協会の財産・権利をすべて帰属し、全事業を継承してスタート

事　業　内　容

1. パークゴルフの普及・指導に関する事業
2. 加盟団体の指導・育成に関する事業
3. 指導者の養成・研修に関する事業
4. 指導員、アドバイザーの認定に関する事業
5. パークゴルフコースの造成指導に関する事業
6. 公認コースの認定に関する事業
7. パークゴルフに関する情報収集、提供（機関紙の発行）に関する事業
8. 各種主催・共催又は後援事業の運営・指導に関する事業
9. その他本協会の目的を達成するために必要な事業

お問い合わせ

NIPPON PARKGOLF ASSOCIATION
公益社団法人日本パークゴルフ協会

〒089-0616　北海道中川郡幕別町宝町53-1
TEL:0155-54-2260　FAX:0155-54-2204
E-mail:parkgolf@ipga.jp　　URL　https://www.parkgolf.or.jp/
Address:Makubetsu-Town Takaramachi 53-1 Hokkaido JAPAN